短期大学家政科学生の修学意識と不安の実態

大　羽　和　子
Kazuko Ohba

は　じ　め　に

社会の動きに伴う生活様式の変化は，人びとの意識を急速に変えている。それにともなって大学教育の現場においても，最近の若者の無気力，無関心，無感動，忍耐力の低下などが指導上の問題点として指摘されるようになった。教育の側からは，時代や対象の変化を越えた一貫した教育理念があることは当然であるが，今ほど産業社会や家庭生活が大きな変化を蒙り学生の意識が著しく変容している時にあっては，家庭科教育のあり方についても新しい方向づけが検討されねばならないであろう。

短期大学の家政科教育の抱える課題を考える時，まず学生の意識の実態を把握する必要があると思われる。このような観点から，今後の学生指導のあり方を考える一つの資料を得るために，中国短期大学家政科学生を対象とする調査を実施した。その結果，いくつかの有意義な知見を得たので報告する。

調　査　方　法

本学家政科食物栄養専攻１年生，２年生の「修学意識」の実態を把握するため，A．短大受験の動機。B．短大生活の目的。C．不安・悩み。D．短大生活の充実度。E．短大生活の期待度と満足度，について質問紙法による調査を行った。A～Cは多肢選択，Eでは期待度と満足度を14項目について５段階評定させた。調査人数は１年生74名，２年生96名（ただしEについては，１年生73名，２年生97名）計170名。調査実施時期は1981年６月および1982年２月であった。なお，これらの調査項目は，日本私立大学連盟：第３回学生生活実態調査[1]およびリクルートセンター調査[2]を参照し，中国短大の実情に即して作製したものである。

さらに，家政専攻，食物栄養専攻の１年生全員に対しC.A.S.不安測定テストを行った。調査人数は家政専攻91名，食物栄養専攻75名，計166名。調査実施時期は1981年７月であった。

結　果　と　考　察

修学意識

A．短大受験の動機

受験の動機内容別分布は，表１に示すとおりである。年度により差はあるが，食物栄養専攻生の受験動機の上位を占めるものは，１）地理的に通学に便利（52.9%），２）将来の就職を考えて（51.2%），３）先生，先輩にすすめられて（29.4%），４）近親者のすすめで（27.1%），５）大学の特色・学風にひかれて（24.1%）などが主なものであった。特に，１）２）が著し

く多いことは注目すべきことである。中国短大の地理的条件は恵まれていることを物語っており，今後は更に内容充実と特色ある教育の確立が望まれることであろう。

表1．短大受験の動機に関する内容別分布

動機	1年		2年		食物栄養専攻全体	
	n	%	n	%	n	%
教育理念にひかれて	1	1.4	2	2.1	3	1.8
大学の特色，学風にひかれて	20	27.0	21	21.9	41	24.1
専攻分野の教授陣がよいので	3	4.1	4	4.2	7	4.1
近親者のすすめで	26	35.1	20	20.8	46	27.1
家業を継ぐため	2	2.7	0	0.0	2	1.2
将来の就職を考えて	25	33.8	62	64.6	87	51.2
学費のことを考えて	3	4.1	4	4.2	7	4.1
先生，先輩にすすめられて	22	29.7	28	29.2	50	29.4
地理的に通学が便利なため	42	56.8	48	50.0	90	52.9
一般的な風評にしたがって	17	23.0	15	15.6	32	18.8
他が不合格になった時のすべり止め	12	16.2	21	21.9	33	19.4
入試に合格する自信があった	7	9.5	15	15.6	22	12.9
受験雑誌や広告に接して	17	23.0	12	12.5	29	17.1
その他	9	12.2	23	24.0	32	18.8
回答者数	74		96		170	

（複数回答）

表2．短大生活の目的に関する内容別分布

目的	1年		2年		食物栄養専攻全体	
	n	%	n	%	n	%
学問研究通じ真理探求	3	4.1	1	1.0	4	2.4
専門的知識や高度技術の修得	23	31.1	42	43.8	65	38.2
豊かな教養を身につけ人格陶冶	18	24.3	22	22.9	40	23.5
資格取得・有利な就職職業を考えて	48	64.9	67	69.8	115	67.6
職場での地位・待遇改善のため	2	1.2	0	0	2	1.2
「短大卒」の学歴が欲しいため	17	23.0	5	5.2	22	12.9
文化・スポーツなど課外活動のため	3	4.1	4	4.2	7	4.1
社会的活動の素養を身につける	12	7.1	19	19.8	31	18.2
結婚の相手探し，青春謳歌	1	1.4	2	2.1	3	1.8
真の友人を得る	15	20.3	20	20.8	35	20.6
特に目的を意識していない	11	14.9	4	4.2	15	8.8
その他	4	5.4	5	5.2	9	5.3
回答者数	74		96		170	

（複数回答）

B．短大生活の目的

短大生活をどんな目的をもって過しているかについては，表2に示すとおりである。1）資格取得，有利な就職，職業を考えて（67.6%），2）専門的知識や高度技術の修得（38.2%），3）豊かな教養を身につけ人格陶冶（23.5%），4）真の友人を得る（20.6%），5）社会的活動の素養を身につける（18.2%）などが主たるものであった。資格取得と有利な就職，そのための専門的知識，技術の修得が選ばれることは当然であるが，3）4）5）をそれぞれ20%前後の学生が選んでいるというのとは，短大教育に教養を身につけること，人間性豊かな社会人としての素質を養うということなどを求めていると解釈できよう。短大教育の理念としてこのような価値観をさらに強調すると共に，学生に対しても一そうの啓蒙が必要と考えられる。

表3．不安・悩みの内容分布

不安・悩み	1年		2年		食物栄養専攻全体	
	n	%	n	%	n	%
不安や悩みはない	4	5.4	3	3.1	7	4.1
勉学上のこと	44	59.5	26	27.1	70	41.2
専攻分野について	15	20.3	6	6.3	21	12.4
健康上のこと	3	4.1	5	5.2	8	4.7
自己の性格や能力について	24	32.4	35	36.5	59	34.7
人生観について	7	9.5	11	11.5	18	10.6
就職や将来の進路について	50	67.6	61	63.5	111	65.3
友人など対人関係について	14	18.9	9	9.4	23	13.5
異性問題について	5	6.8	4	4.2	9	5.3
学費問題について	4	5.4	0	0	4	2.4
家族や家庭内のこと	5	6.8	4	4.2	9	5.3
政治・経済など一般時事問題	1	1.4	0	0	1	0.6
その他	3	4.1	1	1.0	4	2.4
回答者数	74		96		170	

（複数回答）

C．不安・悩み

学生が抱いている不安・悩みについては，表3に示すとおりである。「不安・悩みはない」と答えたものが4.1%あり，他のものはほとんどが複数の不安や悩みをもっている。主なものは，1)就職や将来の進路について(65.3%)，2）勉学上のこと（41.2%），3）自己

の性格や能力について（34.7%）などが注目される。以下，友人など対人関係について(13.5%），専攻分野について（12.4%）がつづくが，あとの項目を選んだものは極めて少ない。

D．短大生活の充実度

表4に示すように，充実度について,「まあまあといったところ」のものが72.9%に達する。2年生より1年生の方が充実感に満されていないものが多い。次に短大生活の期待度と満足度の評定もされているので，それらを対比させることが有意義であろう。

表4．短大生活の充実度

充実度	1年		2年		食物栄養専攻全体	
	n	%	n	%	n	%
充実している方だ	3	4.1	14	14.6	17	10.0
まあまあといったところ	50	67.6	74	77.1	124	72.9
充実していない方だ	21	28.4	8	8.3	29	17.1
全体	74		96		170	

E．短大生活の期待度と満足度

入学時における短大生活に対する期待度と1年後，2年後の満足度について，1年生と2年生を対象とし，14項目を5段階評定させた。表5はそれらの分布を示したものである。

表5．短大生活に対する期待度と満足度の内容別人数分布（カッコ内%）

項目	1年 n＝73 期待度					満足度				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	全くなかった期待し	あしなかった期待	どちらともいえない	少し期待し	非常に期待した	全くなかった満足し	あしなかった満足	どちらともいえない	少し満足し	非常に満足した
学問の真髄を極めること	5 (6.8)	10 (13.7)	32 (43.8)	23 (31.5)	3 (4.1)	8 (11.0)	28 (38.4)	26 (35.6)	10 (13.7)	1 (1.4)
実社会で役立つ専門知識技術を修得すること	2 (2.7)	2 (2.7)	6 (8.2)	39 (53.4)	24 (32.9)	7 (9.6)	20 (27.4)	23 (31.5)	22 (30.1)	1 (1.4)
一般知識・基礎知識を身につけること	2 (2.7)	6 (8.2)	10 (13.7)	39 (53.4)	16 (21.9)	5 (6.8)	15 (20.5)	26 (35.6)	26 (35.6)	1 (1.4)
自分なりの哲学・生き方をつかむこと	11 (15.1)	16 (21.9)	23 (31.5)	15 (20.5)	8 (11.0)	9 (12.3)	20 (27.4)	34 (46.6)	6 (8.2)	4 (5.5)
親友を得ること	2 (2.7)	6 (8.2)	7 (7.6)	36 (49.3)	22 (30.1)	2 (2.7)	6 (8.2)	15 (20.5)	35 (47.9)	15 (20.5)
信頼できる教師に接すること	6 (8.2)	9 (12.3)	25 (34.2)	22 (30.1)	11 (15.1)	7 (9.6)	12 (16.4)	31 (42.5)	18 (24.7)	5 (6.8)
充実したクラブ活動を楽しむこと	18 (24.7)	9 (12.3)	12 (16.4)	20 (27.4)	14 (19.2)	34 (46.6)	12 (16.4)	16 (21.9)	10 (13.7)	1 (1.4)
長期間の旅行ができること	15 (20.5)	13 (17.8)	9 (12.3)	27 (37.0)	9 (12.3)	23 (31.5)	13 (17.8)	21 (28.8)	11 (15.1)	5 (6.8)
好きなだけ本を読むこと	11 (15.1)	17 (23.3)	27 (37.0)	10 (13.7)	8 (11.0)	11 (15.1)	17 (23.3)	30 (41.1)	13 (17.8)	2 (2.7)
自由な時間をもつこと	2 (2.7)	4 (5.5)	7 (9.6)	29 (39.7)	31 (42.5)	6 (8.2)	22 (30.1)	16 (21.9)	26 (35.6)	3 (4.1)
就職に有利であること	2 (2.7)	11 (15.1)	16 (21.9)	34 (46.6)	10 (13.7)	4 (5.5)	15 (20.5)	53 (72.6)	0 (0.0)	1 (1.4)
周囲の人から認められること	6 (8.2)	13 (17.8)	33 (45.2)	19 (26.0)	2 (2.7)	9 (12.3)	12 (16.4)	44 (60.3)	7 (9.6)	1 (1.4)
社会的活動に参加すること	12 (16.4)	17 (23.3)	30 (41.1)	11 (15.1)	3 (4.1)	14 (19.2)	16 (21.9)	35 (47.9)	7 (9.6)	1 (1.4)
大学を卒業しないと得られない資格を得ること	2 (2.7)	0 (0.0)	9 (12.3)	31 (42.5)	31 (42.5)	9 (12.3)	12 (16.4)	39 (53.4)	12 (16.4)	1 (1.4)

項　目	2				年				n =97	
	期待度					満足度				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	全くなかった期待し	あしまりなかった期待	どちらいえないも	少し期待した	非常に期待した	全くなかった満足し	あしまりなかった満足	どちらいえないも	少し満足した	非常に満足した
学問の真髄を極めること	2 (2.1)	15 (15.5)	33 (34.0)	44 (45.4)	3 (3.1)	4 (4.1)	22 (22.7)	47 (48.5)	22 (22.7)	2 (2.1)
実社会で役立つ専門知識技術を修得すること	0 (0.0)	2 (2.1)	6 (6.2)	49 (50.5)	40 (41.2)	0 (0.0)	21 (21.6)	21 (21.6)	51 (52.6)	4 (4.1)
一般知識・基礎知識を身につけること	0 (0.0)	7 (7.2)	19 (19.6)	44 (45.4)	27 (27.8)	0 (0.0)	20 (20.6)	31 (32.0)	44 (45.4)	2 (2.1)
自分なりの哲学・生き方をつかむこと	7 (7.2)	18 (18.6)	39 (40.2)	24 (24.7)	9 (9.3)	6 (6.2)	17 (17.5)	48 (49.5)	24 (24.7)	2 (2.1)
親友を得ること	0 (0.0)	6 (6.2)	6 (6.2)	46 (47.4)	39 (40.2)	0 (0.0)	2 (2.1)	8 (8.2)	42 (43.3)	45 (46.4)
信頼できる教師に接すること	4 (4.1)	12 (12.4)	27 (27.8)	45 (46.4)	9 (9.3)	8 (8.2)	20 (20.6)	30 (30.9)	32 (33.0)	7 (7.2)
充実したクラブ活動を楽しむこと	19 (19.6)	27 (27.8)	15 (15.5)	25 (25.8)	11 (11.3)	42 (43.3)	17 (17.5)	16 (16.5)	12 (12.4)	10 (10.3)
長期間の旅行ができること	11 (11.3)	16 (16.5)	15 (15.5)	36 (37.1)	19 (19.6)	21 (21.6)	20 (20.6)	15 (15.5)	32 (33.0)	9 (9.3)
好きなだけ本を読むこと	9 (9.3)	19 (19.6)	41 (42.3)	21 (21.6)	7 (7.2)	8 (8.2)	18 (18.6)	33 (34.0)	34 (35.1)	4 (4.1)
自由な時間をもつこと	2 (2.1)	4 (4.1)	9 (9.3)	45 (46.4)	37 (38.1)	1 (1.0)	19 (19.6)	18 (18.6)	40 (41.2)	19 (19.6)
就職に有利であること	0 (0.0)	7 (7.2)	20 (20.6)	48 (49.5)	22 (22.7)	10 (10.3)	21 (21.6)	44 (45.4)	15 (15.5)	7 (7.2)
周囲の人から認められること	8 (8.2)	12 (12.4)	39 (40.2)	35 (36.1)	3 (3.1)	4 (4.1)	9 (9.3)	71 (73.2)	12 (12.4)	1 (1.0)
社会的活動に参加すること	8 (8.2)	22 (22.7)	44 (45.4)	19 (19.6)	4 (4.1)	16 (16.5)	25 (25.8)	48 (49.5)	6 (6.2)	2 (2.1)
大学を卒業しないと得られない資格を得ること	0 (0.0)	1 (1.0)	8 (8.2)	37 (38.1)	51 (52.6)	2 (2.1)	4 (4.1)	36 (37.1)	38 (39.2)	17 (17.5)

1年生においても2年生においても，程度の差はあっても短大生活に期待をしているものは共通しており，少し期待した，と非常に期待した，を合わせると，1）実社会で役立つ専門知識・技術の修得，2）資格の取得が圧倒的に高く，次に3）自由時間をもつこと，親友を得ることがつづき　5）一般知識・基礎知識を身につけることである。さすが2年生においては，就職についての期待が向上してくる。それに対して満足度については，少し満たされているものと非常に満たされているものを合わせると，親友を得ることが2年生では89.7%　1年生では68.4%と高く,期待が充足されていることになる。しかし，他の項目については，必ずしも満たされているとはいえない。

次に期待度と満足度の平均値を求め，期待度と満足度のプロフィールを描いたものが，図1である。

1年生，2年生ともに前述のように，よく似たプロフィールである。平均値が期待以上に満足できているものは，親友を得ることである。それに対して，期待と満足のギャップが大きいものは，実社会で役立つ専門知識・技術の修得，一般知識・基礎知識を身につけること，自由時間をもつこと，就職に有利，であり,期待が満たされていないことを示している。これらのことは，食物栄養専攻における教科内容のむずかしさと過密なカリキュラムを物語るものであり短期間で資格を付与しなければならない養成機関としての短期大学の宿命であろう。

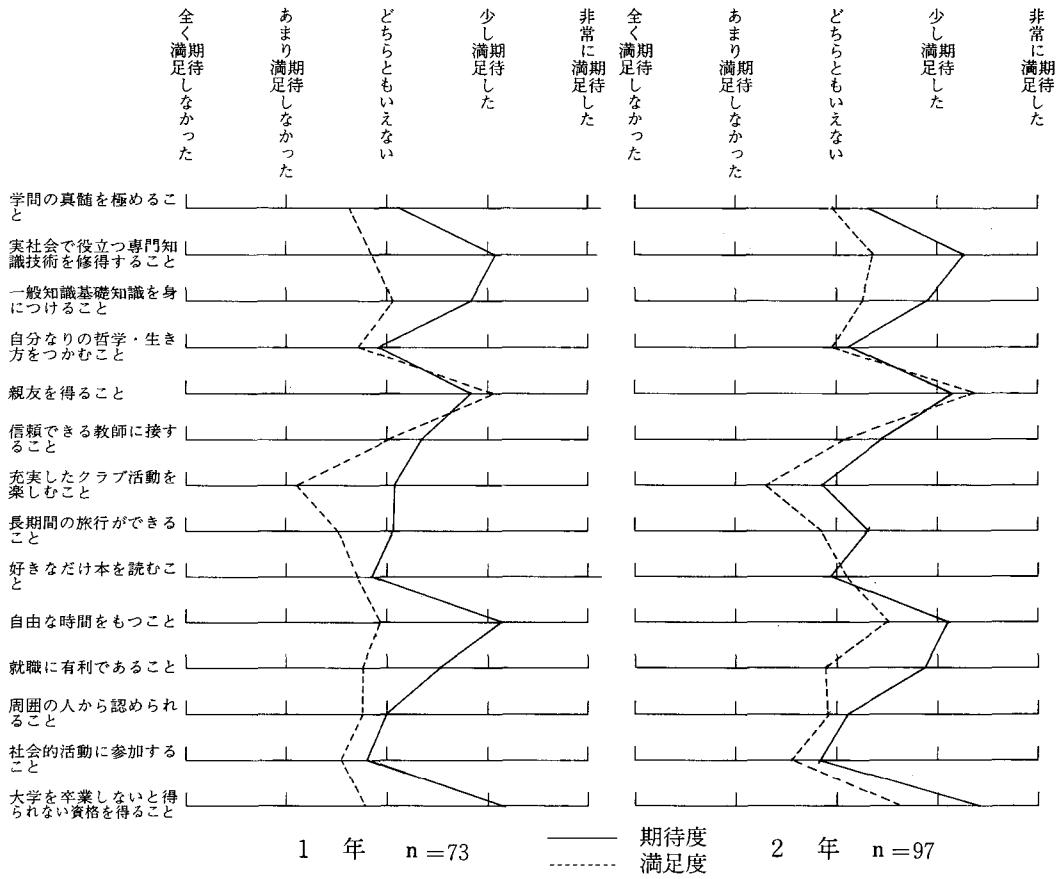

図1．食物栄養専攻生の短大生活に対する期待度と満足度（平均値）のプロフィール

不安測定

精神健康度の測定尺度であるC．A．S．不安測定テストの結果は表6に示すとおりである。下位尺度の解釈について列挙すると次のようである。

- $Q_3^{(-)}$　自我統制力の欠除，または自我感情の発育不全。
- $C^{(-)}$　自我の弱さ。
- L　疑い深さ，パラノイド傾向。
- O　罪悪感，無価値感。
- Q_4　欲求不満による緊張。

各下位尺度の得点，および総合点の平均値について，専攻間で t 検定を行った結果，すべての下位尺度と総合点について，有意な差が認められた。正常な人の標準の総合点は，平均35.55，SD12.69である。[3] 本調査の結果と比較してみると，この標準の両側にわたっているように思われる。

表6．C．A．S．による不安得点の平均と標準偏差

	家政専攻 n＝91		食物栄養専攻 n＝75		t 検定
	M	SD	M	SD	
$Q_3^{(-)}$	9.26	3.61	6.79	3.35	4.505 $p<.001$
$C^{(-)}$	6.65	3.30	4.96	2.94	3.428 $p<.001$
L	6.13	3.41	4.35	2.87	2.648 $p<.01$
O	10.07	2.93	8.75	3.78	2.518 $p<.02$
O_4	9.21	3.62	8.00	4.10	2.006 $p<.05$
Total	41.21	11.75	32.84	12.38	23.824 $p<.001$

$df=164$

女子大生の標準得点（偏差値）分布表[3]に準じて，本調査の不安得点を標準得点に換算し，それぞれの標準得点に該当する人数とその比率を示すと表7の通りである。

精神衛生上留意すべき水準である標準得点10～8について，それぞれ23名（25.3%）と7名(9.3%)，さらに，カウンセリングが望ましいとされている水準である標準得点7について，それぞれ14名（15.4%）と9名（12.0%）などは，特に注目する必要がある。これらのことは，短大教育におけるカウンセリングの重要性を暗示するものといえよう。

表7．不安得点別人数分布

不安総得点（標準得点）	家政専攻 n＝91			食物栄養専攻 n＝75		
	n		%	n		%
10	10	23	25.3	1	7	9.3
9	4			4		
8	9			2		
7	14		15.4	9		12.0
6	22	48	52.7	12	37	49.3
5	12			10		
4	14			15		
3	3	6	6.6	12	22	29.3
2	2			4		
1	1			6		

お　わ　り　に

今回の調査研究により，本学家政科食物栄養専攻学生の短大生活に対する意識の実態と，いくつかの問題点が明らかにされた。これらをふまえて，専門知識ならびに技術に関する教授法の改善につとめ，学生の社会的適応力の育成をはかることが必要とされるであろう。人間的成長の面からみると，大学生活に対する意識と適応状態は，1年生については必ずしも最適とはいえないようである。今後，学年進行に応じた追跡調査を行うことによって，短大教育の効果を確認することができるであろう。それは，これからの課題である。

短大教育には，専門学校と異なる教育理念がある。変動する社会の中で豊かな人間らしい生活を創造するための基礎知識と，女性が自立するための普遍的な人間形成の教養教育が，専門教育と共に認識される必要があると思われる。

最後に，調査に御協力頂いた本学専任講師北川歳昭先生に御礼を申し上げます。また，本研究を助成された大学当局に厚く感謝の意を表します。

文　　献

1） 三つの学生生活調査から，ＩＤＥ現代の高等教育。No.170，p.46—54，民主教育協会，東京（1976）
2） 石原正義：調査にみる現代の学生像，ＩＤＥ現代の高等教育。No.198，p.26—33，民主教育協会，東京（1979）
3） 園原太郎・対馬忠・辻岡美延・対馬ゆき子　C.A.S.不安診断検査解説書（改訂版）。東京心理株式会社，東京